

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 19年1月 20 日

I 概要

実践団体・担当者名	三重県鈴鹿市立鼓ヶ浦小学校 (担当者: 村林 直利)
連絡先	校長 村林 直利 059-386-3355 tsuzumigaura-e@city.suzuka.mie.jp
プランタイトル	プラン名 みんなで安全安心な地域づくりをしよう ～PTCA(学校・保護者・地域が一体となった)を意識した防犯・防災の取り組み～
目的	<目的> 「自分の命は自分で守る」「地域の子どもは地域で守る」「地域の死角を無くす」という3つの視点から、自ら防犯防災に関する知識と技能を高めると共に防犯防災意識の高い、学校・保護者・地域が一体となった地域コミュニティづくりを推進し(P T C A活動)、子どもや高齢者、社会的弱者が守られ、安全で楽しい地域生活に貢献する。
プランの概略	<p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の命は自分で守る」という「自助」の意識と技術を身に付ける ・「地域の人々全体で地域の人を守る」という「共助」の精神を育む地域コミュニティづくりに寄与する。 ・「地域の死角を無くす」という観点で、子どもや高齢者等の社会的弱者が有事の際に優先的に安全確保に配慮されるよう学習する。 <p>1 PTA と学校共催の防災勉強会</p> <p>南部美智代講師指導による図上訓練(危険箇所や支援の必要な家庭の情報、消火栓や備蓄倉庫の確認、避難経路等を話し合いの中確認し地図上に記入するや災害グッズを作成する。阪神淡路大地震のビデオを視聴し今、自分たちでできることを話し合う。さらに、参加者自らが子どもを守る家(緊急時駆け込める家、44軒)へのあいさつや写真撮影とマップへの掲載等の作業を通して、校区の安全マップに加筆修正を行いより精度の高いマップを作成する。</p> <p>2 通学路の安全点検の徹底と要注意箇所の周知徹底</p> <p>教師とPTA安全部による点検作業を行う。その結果をプリントにまとめ児童や地域の方々へ周知徹底を図る。</p> <p>教育課程の安全教育で「通学路安全マップ」作成にあたり、児童自身の参加を進め、主体的な実践力を身につけさせる。</p> <p>知り得た情報を保護者、地域のボランティアさらには警察等へも提供し、パトロール等について協力依頼する。</p> <p>3 安全安心パトロール隊の活動</p> <p>保護者や地域の方々に呼びかけさらにパトロール隊を増員させる。</p> <p>パトロール他の方々には腕章とフエを貸与し、色々な時間にパトロールを実施してもらい犯罪抑制効果を高める。</p>

	<p>地域の方々や警察等のパトロール実施により、児童の安全が地域全体で守られている環境を醸成する。</p> <p>4 教師や児童の安全教室の実施</p> <p>教師や児童の安全教室を実施し、有事の際、被害を少なくする知識や技能を体験する。</p>	
プランの対象と 参加人数	本校児童とその保護者及び地域住民（200名程度）	
実施日時	<p>1 防災勉強会 第1回防災勉強会 7月8日（土） 第2回防災勉強会 9月30日（土）、 第3回防災勉強会 11月18日（土）</p> <p>2 安全点検は随時（PTAと教職員及び地域住民、ただしPTAは安全部を中心に日をきめて）</p> <p>3 安全パトロール隊の活動は随時（情報交換会は平成19年2月10日の実施予定）</p> <p>4 安全教室の実施（1・2年 5月23日 AL SOK安心教室実施、3～6年三学期予定）</p>	
主な実施場所	<p>鼓ヶ浦小学校を主な中心場所とした。</p> <p>ただし、第2回防災勉強会は兵庫県神戸市の人と防災未来センターを見学。</p>	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	あり
	連携した団体名	<p>鈴鹿市役所防災安全課 みえ防災コーディネーター</p>
	連携したきっかけ・理由	<p>今まで指導を受けてきた南部美智代さんを通して「鈴鹿市役所防災安全課」を、そこを通して「みえ防災コーディネーター」を紹介していただいた。</p>
	連携団体へのアプローチ方法	<p>鈴鹿市役所防災安全課を通してアプローチをした。</p>
	連携団体との打合せ回数	<p>防災勉強会ごとに必要回数（3回程度）</p>
	連携団体との役割分担	<p>PTA会長が窓口となった。</p>

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	PTA安全部員6名、PTA会長、PTA副会長、校長、教頭
	外部スタッフの総人数	<p>災害ボランティアネットワーク理事長 南部美智代 鈴鹿市役所防災安全課 3名 みえ防災コーディネーター 3名</p>
	主なメンバーの 役職・役割	<p>PTA会長は外部団体との交渉と企画 PTA副会長は会長の補佐 PTA安全部員は部長を中心に運営 外部スタッフは企画と運営のアドバイザー 校長と教頭はアドバイザー</p>
プラン立案に要し	立案期間	平成18年4月1日 ～平成19年1月20日

た日数・時間	立案時間	1時間～2時間×3回 時間× 回
	上記のうち打合せ回数	3回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	防災勉強会においてはマンネリ化にならないような参加者が参加してよかったと思えるような内容にすることに注意を払った。	
プラン立案で 苦労した点	特に第三回の防災勉強会で学校が避難所になった場合の課題作り。 最終的には、鈴鹿市役所防災安全課の職員のアドバイスをいただき決定した。	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	10名
	外部スタッフの総人数	7名
	主なメンバーの 役職・役割	PTA会長は企画と外部団体との交渉 PTA副会長は会長の補佐 PTA安全部 6名はスケジュール計画、募集用紙の作成と配布、運営や役割分担表の作成、必要な備品等の準備手配と購入、アンケート用紙等の準備等運営に関する事柄全体 校長と教頭はPTAへのアドバイス
準備に要した日 数・時間	準備期間	平成18年4月1日～平成19年1月20日
	準備総時間	1～2時間×4回程度
	上記の内打合せ回数	各回3回程度
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	みえ防災コーディネーター
	どのように働きかけたか	防災勉強会実施当日のアドバイスをお願いしたいと依頼した。
	結果	当日アドバイスをしてくれた。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	地域の自治会連合会
	どのように働きかけたか	各回の募集要項の地域回覧を依頼。 第3回の防災勉強会に自治会単位で参加依頼。
	結果	各回とも回覧を協力してくれた。 第3回の防災勉強会の時、第1次避難として地区の集合場所に地区ごとにまとまって学校まで集合したのち話し合いに参加し効果をあげた。

保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	PTA保護者に参加を呼びかけた。
	どのように働きかけたか	学校の児童を通して参加を呼びかけた。
	結果	一般のPTA会員の参加は増やせなかった。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	第1回防災勉強会では映画マグニチュード「明日へのかけ橋」視聴、阪神淡路大地震の被災者1名による体験談。 第2回防災勉強会では神戸市の「人と防災未来センター」で体験学習。
	入手先・入手方法	マグニチュード「明日へのかけ橋」は南部美智代さんから借りた。 阪神淡路大地震の被災者は南部美智代さんから紹介された。
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	マグニチュード「明日へのかけ橋」は悲惨で身近な教材として選んだ。 体験談は具体的で真に迫っていることを期待して選んだ。
参加者の募集	募集方法	募集要項をPTA会員と子どもを守る会会員、安全安心パトロール隊員には学校の児童を介して送付し、地域の方々には自治会の回覧にて募集した。
	募集期間	実施日の1ヶ月前ぐらい
	参加予想人数	各回100名程度
	実際の参加人数	第1回110名程、第2回89名、第3回115で314名程
	募集方法の成功点	自治会の回覧文書をしたので、地域の方々の関心を高め、参加につながったように思われる。
	募集方法の失敗点	最新情報がいいとの思いで、1ヶ月前に回覧したら、回りきらない地区も存在することがわかってきた。自治会の回覧文書が地区によって約1ヶ月程かかってしまうところもあるそうで、その失敗から、期日までの余裕と直前情報の折り合いをつけることを生かしている。
準備で苦労した点・工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> マンネリ化しないような魅力ある防災勉強会にしていく課題がのこった。 参加者を増やすために何が大切か、必要なことをアンケートなどで聞いていった。 企画立案した者と実際運営していく者が異なっていたので情報交換に苦労した。 	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月	実施計画の立案		
12月	実施計画の立案	実施計画の立案	
2006 1月	実施計画の立案	実施計画の立案 プレゼンの準備	
2月	チャレンジプランで計画をプレゼン	プレゼンの準備	プレゼン発表 2月18日
3月	実施計画及び資金計画の作成		実施計画及び資金計画の作成
4月		実施計画の立案 講師・協力団体への依頼、事前打ち合わせ	
5月		講師・協力団体との事前打ち合わせ 安心教室の打ち合わせと実施（5月23日）	
6月		保護者・地域住民への広報と募集 スタッフの打ち合わせ	
7月		スタッフの打ち合わせ 第2回の地域住民への広報と募集 スタッフの打ち合わせ	第1回の防災勉強会の実施（7月8日）
8月		スタッフの打ち合わせ	
9月	中間発表会提案内容の準備	スタッフの打ち合わせ	第2回防災勉強会の実施（9月30日）
10月		スタッフの打ち合わせ 第3回防災勉強会の地域住民への広報と募集	中間発表会へ参加発表（10月21日）
11月		スタッフの打ち合わせ	第3回防災勉強会の実施（11月18日）
12月		実施報告書の作成 子ども守る家・安全安心パトロール隊合同情報交換会の準備	
2007 1月		最終報告会の準備 子ども守る家・安全安心パトロール隊合同情報交換会の準備	最終報告の提出（1月末）
2007 2月		子ども守る家・安全安心パトロール隊合同情報交換会の準備 安心教室の実施（予定）	子ども守る家・安全安心パトロール隊合同情報交換会の実施（2月10日） 最終報告会参加提案（2月17・18日）

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

9:00~12:00

タイトル	第1回防災勉強会			
実施日	平成18年7月8日			
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	阪神淡路大地震を一つのモデルとして、都市における直下型地震の怖さと悲惨さと地域の協力体制の必要性を理解する。(90分)	阪神淡路大地震を一つのモデルとして、都市における直下型地震の怖さと悲惨さと地域の協力体制の必要性を理解する。	実際に被災した方の体験談を聞くことにより、地震をより身近なことでして理解する。	感想・意見交換をすることにより学習したことを深化させる。
生成物				
進め方 (箇条書き)	映画マグニチュード「明日へのかけ橋」視聴	映画マグニチュード「明日へのかけ橋」視聴	講師 吉田 悦子さん	司会者が出席者から感想を聞き意見交換を行う。
ツール (特別に用意したもの)	映画フィルム1本			
場所	鼓ヶ浦小学校高学年図書室			

VI実践後

参加者へのアンケート結果	別紙アンケートを実施 参加者の内40名回答 1 期待以上とほぼ期待通りが100% 2 内容は期待以上とほぼ期待通りが100%であった。 参加者のほとんどが満足した結果が出ている。	
成果として得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災意識を高めるのに役立った。 ・ 被災の方の話を直接聞くことができたことは説得力があった。 ・ 災害時にやるべきことが分かった。 ・ 地域住民の協力につながる。 	
成果物		
広報方法	広報した先	各種新聞社、ケーブルテレビ等
	広報の方法	鈴鹿市教育委員の所定の用紙で広報活動
	取材にきたマスコミ	ケーブルテレビすずか
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	・ 映画マグニチュード「明日へのかけ橋」と実際の被災者から話を聞いて防災についての勉強会を行った。
	成功点	・ 他地域の方も見たよと報告があった。
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	<p><感想と成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども及び地域の方々の防犯防災に関する知識と体験を通し、一人一人が「自分の命は自分で守る」意識の高揚を図ることができた。 ・ 防災学習会を開催し、地域住民のふれあいを促進するプログラム体験活動を通し、地域コミュニティの地域団結力高揚が必要なことを改めて実感した。 ・ 防災学習会を通して、共助の精神を高め「避難所運営マニュアルづくり」へと発展するきっかけと基礎づくりができた。 <p><反省と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者が身近なところで活用できる内容があり、参加してよかったと思える中身を企画。 ・ 防災勉強会を企画し運営していくにはかなりの時間とエネルギーが必要であるので、スタッフの負担を軽くする工夫が必要。 ・ 避難所運営マニュアルづくりは企画と運営にいくつかの課題が見えてきたがそれを解決していくには、外部の団体との連携が必要である。しかも、その打ち合わせ等に時間と手間がかかることが課題である。 	
今後の予定	来年度以降の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T Aと学校及び自治会と連携していくことが大切である。 ・ P T Aの案全部の負担が大きいので、スタッフを増やし防災部と案全部の2グループ制をとることにした。 ・ 鈴鹿市の防災安全課との連携を深めていく。
	是非実施してみたい取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営マニュアルを作成していく。
自由記述		